

富山県内の
中小企業動向調査

ファースト

Trend

VOL.04

APRIL.2021

CONTENTS

特集 富山県内の中小企業に与える
新型コロナウイルスの影響

中小企業動向調査【アンケート実施結果】令和2年 10~12月実績 / 令和3年 1~3月見込 / 4~6月予測



黒部川堤防桜堤の桜並木（入善町）

企画／発刊



富山第一銀行

<https://www.first-bank.co.jp/>

ファースト Trend vol. 04 目次

特集

富山県内の中小企業に与える 新型コロナウイルスの影響	1
まとめ	4

中小企業動向調査

I. 企業業況	5
II. 売上高状況	6
III. 設備投資動向	7
IV. 当面の経営上の問題点	8
総評	9

経営課題の整理から解決までをサポートします。

皆さまのお話をうかがい、市場の動向や企業の強み・弱み・事業計画、戦略立案などを整理・見える化を行い、専門家の派遣や当行ネットワークを活かした支援を行います。

創業期

新たな事業を始めたい！

開業に向けてゼロから相談をお受けします。

新規創業・独立起業サポート

- ① 専門家の紹介による事業計画の作成
- ② 各種助成制度活用アドバイス など

成長期

成熟期

売上を増やしたい！事業を拡大したい！

多角的な視点に基づいたご相談をお受けします。

経営計画策定サポート

- ① 経営戦略・経営改善計画の作成
- ② 法務・税務・財務部門の専門家派遣

ビジネスマッチングサポート

- ① 業種毎のビジネスパートナーの紹介
- ② 各種相談会の実施

新事業分野進出サポート

- ① 経営革新計画取得に向けたサポート
- ② 産学連携による技術開発の支援

新商品開発・農業関連サポート

- ① 各種助成制度の活用支援
- ② 事業計画立案支援
- ③ 農業関連（6次産業）支援

M&Aサポート

- ① 市場シェアの拡大
- ② 県内外拠点の獲得



海外に進出したい！

中国や東南アジアなど海外拠点への行員派遣の実績もあり、ネットワークを活用したご相談をお受けします。

海外情報提供・現地との連携によるサポート

- ① 海外情勢・法規制についての情報提供
- ② 海外進出に関する専門家・パートナーのご紹介

承継期

事業を継承したい！

円滑な事業承継のご相談をお受けします。
企業の現状、自社株評価等の把握と整理をお手伝いします。

事業承継計画策定サポート

- ① 事業承継計画の立案支援
- ② 後継者育成・株式譲渡・各種相談手続の支援
- ③ 第三者承継支援

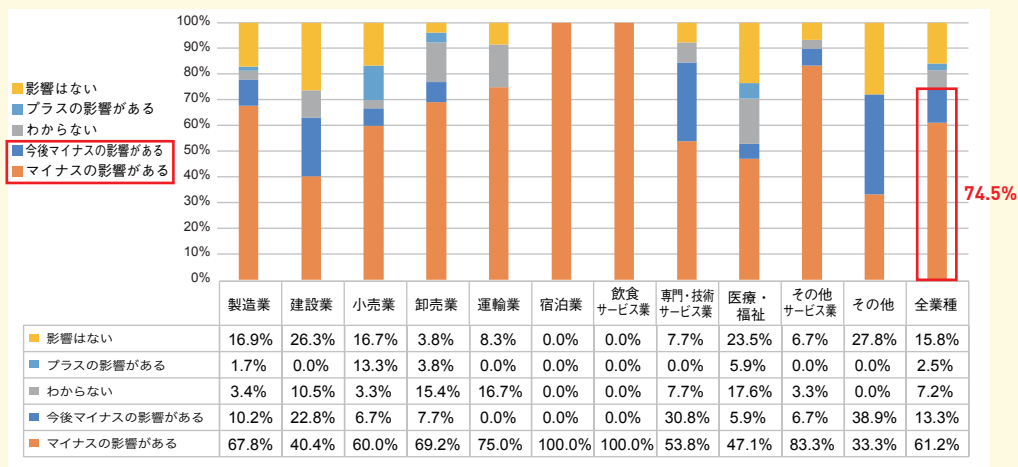
ぜひお問い合わせ下さい

 富山第一銀行

富山県内の中小企業に与える新型コロナウイルスの影響 (2021年2月)

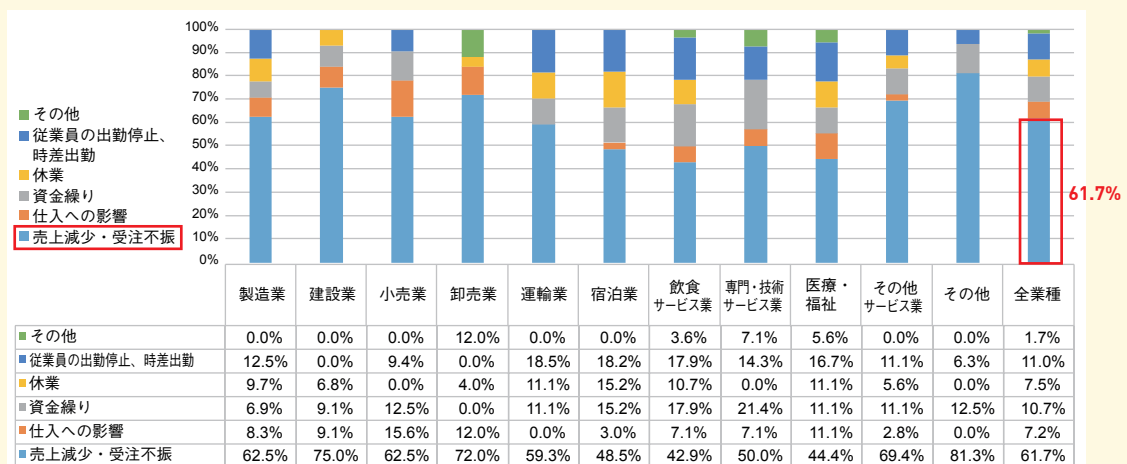
新型コロナウイルスが日本経済に大きな影響をもたらしています。2020年11月からの第三波の影響により緊急事態宣言が発出され、一度持ち直すかに思われた日本経済については再び悪化しています。新型コロナウイルスワクチンの接種が2021年2月から開始されましたが、国民全員が接種するにはまだ時間がかかると言われており、経済回復への道筋が完全に見えたわけではありません。新型コロナウイルスの影響に対して、富山県内の中小企業がどのような対応をしているのか、今後どうなっていくのかを2021年2月に実施したアンケート結果を踏まえ実態調査と考察を行います。

設問1：新型コロナウイルスによる業績への影響



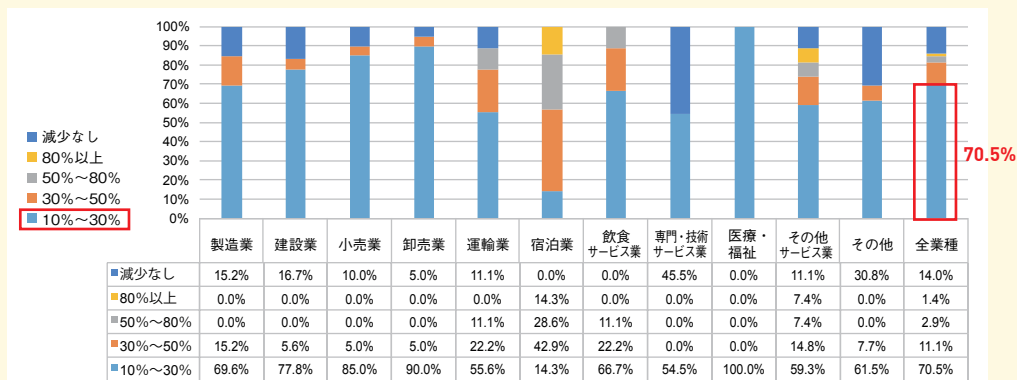
- ・全業種平均では、「マイナスの影響がある」、「今後マイナスの影響がある」の回答が前回調査時（2020年10月）では68.3%であったところ、今回調査（2021年2月）では74.5%に上昇しました。
- ・製造業、運輸業、卸売業、宿泊業、飲食サービス業では、既にマイナスの影響が出ているところが多いのが特徴ですが、建設業、専門・技術サービス業では今後マイナスの影響があると予想している企業が比較的多いのが特徴です。

設問2：具体的にはどのような影響がありますか（複数回答可）



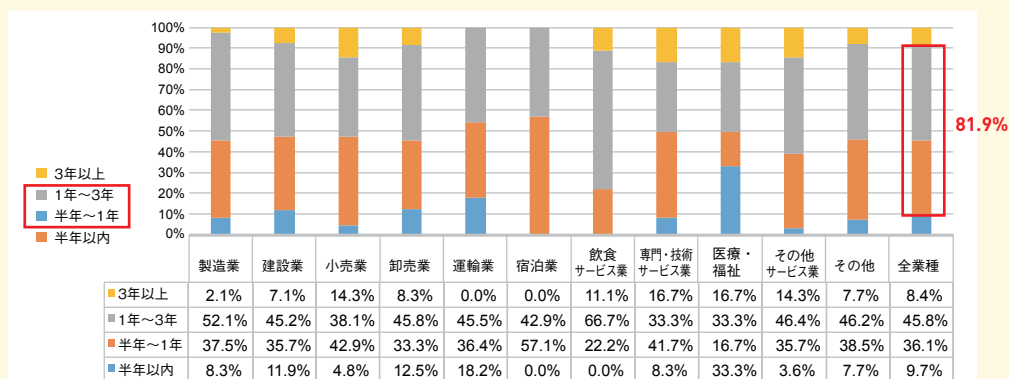
- ・「売上減少・受注不振」とした回答が最も多く、全業種で61.7%となっています。前回調査時（2020年10月）も64.2%で最も高く、コロナ禍における売上減少・受注不振に苦しむ企業が多いことがわかります。

設問 3：今後半年間で売上の減少率はどれくらいを想定していますか



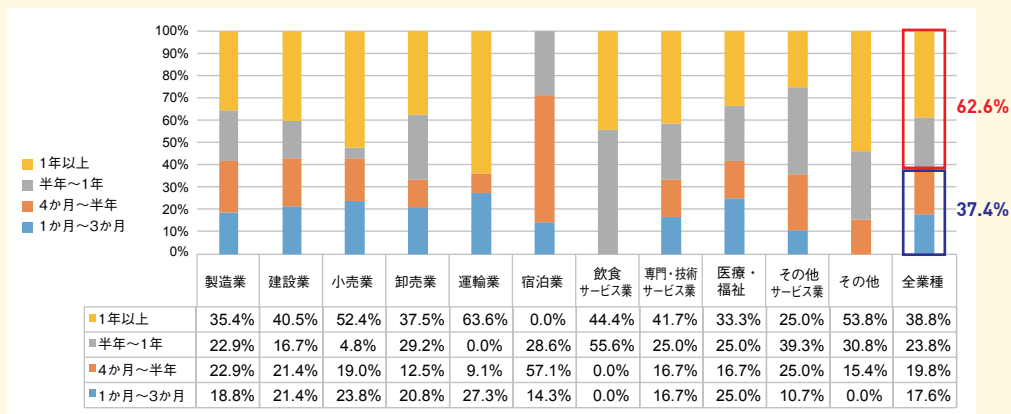
- ・「10%~30%」とする回答が最も多く、全業種で70.5%となっています。前回調査時（2020年10月）は66.9%であり、3.6ポイント上昇しています。「30%~50%」と回答した企業は全業種で11.1%であり、前回調査時（2020年10月）よりマイナス3.9ポイントとなっています。これは、前回のアンケートで「30%~50%」と回答した企業の一部が「10%~30%」に変更したことが要因であると推測できます。
- ・宿泊業については、50%以上売上が減少すると答えた企業が42.9%となっており、非常に苦しい状況にあると言えます。

設問 4：新型コロナウイルスの影響は今後どれくらいの期間続くと考えていますか



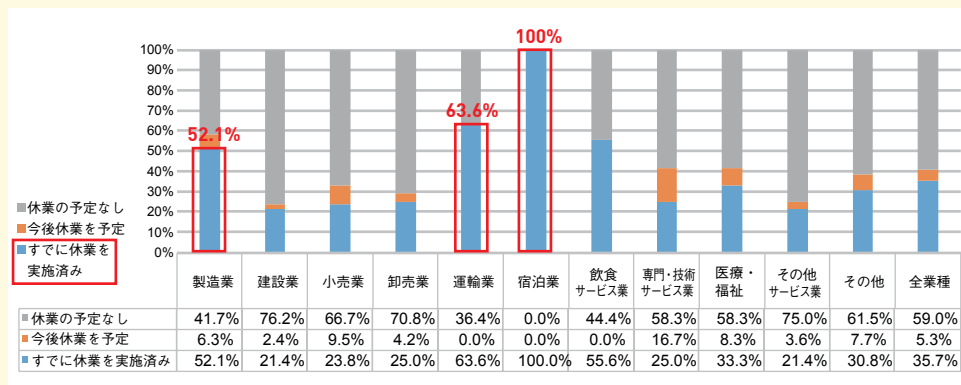
- ・全業種において、「半年~1年」と回答した先が36.1%、「1年~3年」と回答した先が45.8%となり、半年~3年はコロナの影響が続くと考えている企業が8割超となっています。ただし、医療・福祉業に関しては半年以内に影響は収まるだろうと予測している企業が33.3%と多く、業種によっても異なることが分かります。

設問 5：新型コロナウイルスの影響が続く場合の資金猶予期間はどれくらいですか



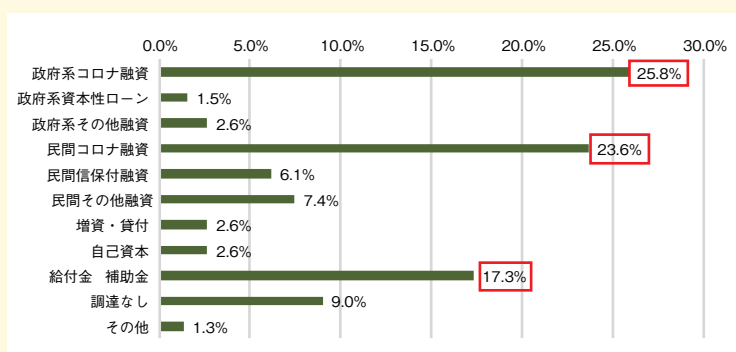
- ・コロナ影響による資金繰りについては、「半年以上~1年」「1年以上」と答えた企業が62.6%となっており、ある程度資金繰りの目途がたっている企業は多いと思われます。しかし、「1か月~3か月」「4か月~半年」と答えた企業も37.4%あることから、今後も資金繰りについては支援体制が必要であることがわかります。

設問 6：新型コロナウイルスの影響による従業員の休業を予定していますか



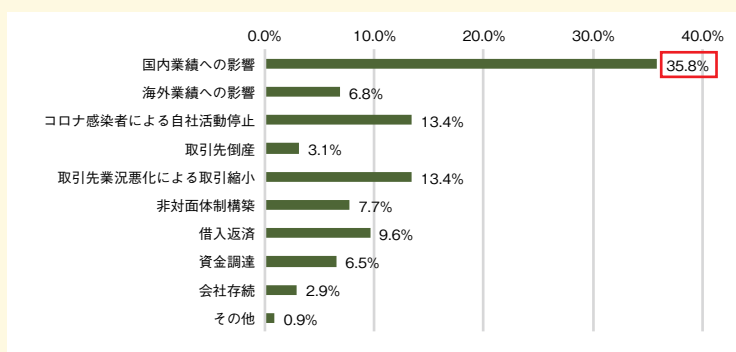
・宿泊業では従業員の休業を100%実施しています。次いで多いのは運輸業の63.6%、飲食・サービス業の55.6%です。製造業も52.1%は休業を実施済みです。雇用調整助成金の特例措置もあり、従業員を休業させることで雇用維持をしながらコロナ禍を乗り切っていく対応が求められています。

設問 7：新型コロナウイルスに伴う資金調達について（複数回答可）



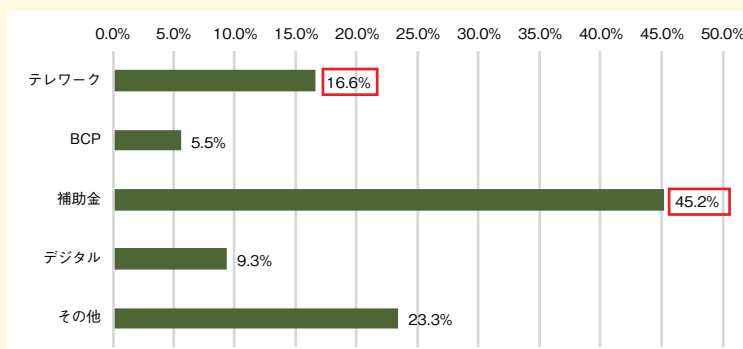
・政府系コロナ融資（日本政策金融公庫、商工中金）25.8%および民間金融機関によるコロナ融資（無利子）23.6%が多く、次いで給付金や補助金を活用している先が17.3%となっています。

設問 8：コロナ禍において、今後懸念される事象は何ですか（複数回答可）



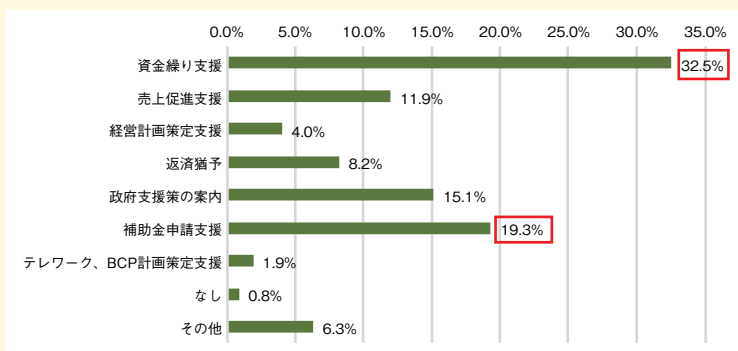
・懸念事項として「国内業績への影響」が最も高く35.8%であり、次に「コロナ感染者による自社活動の停止」および「取引先の業況悪化による取引縮小」がそれぞれ13.4%となっています。

設問 9：新型コロナウイルスで実施した施策（複数回答可）



・各種補助金の申請を行った企業が45.2%あり、積極的に各種政府支援策を活用していることがうかがえます。また、今回の調査回答では「テレワークの実施」が16.6%であり、全国平均（帝国データバンク：「新型コロナウイルス感染症に対する企業の意識調査（2020年8月）」の52.7%に比べ低い水準であると言えます。

設問 10：新型コロナウイルスに伴うことで銀行にどのようなサポートを求めますか（複数回答可）



・金融機関に求めるサポートとしては、資金繰り支援が最も多く32.5%となっています。また、補助金申請支援も19.3%と資金繰り支援の次に高くなっており、設問9でもあったように補助金に対するニーズが高まっています。

まとめ

新型コロナウイルスの影響により、中小企業はかつてない危機に立たされていると言えます。しかし、ワクチン接種による発症予防効果や「新しい生活様式」による感染防止対策等により、ウィズコロナ、ポストコロナの時代がもう直前に来ています。新型コロナウイルスの影響は、企業にとって事業承継問題やデジタル化の遅れ等の長年の課題の数々を浮き彫りにしました。この課題を解決し、そして活力と変えるためには企業の変革が必要不可欠です。令和3年度はこの企業の変革のための政府支援策が多く出てきています。今回調査のアンケートでも補助金を積極的に活用している企業の姿が見えてきました。企業の変革のためには、中長期的な視点に立った経営計画の策定や新分野展開や業態転換等の事業再構築計画等、様々な施策を実施していかなくてはなりません。当行では、ポストコロナの時代を迎えるにあたって、多様なソリューションメニューを用意しお客様をサポートしていきます。

政府による経済対策（令和2年度第3次補正予算対応分ほか）

コロナ禍において多くの補助金や各種経済対策が実施されています。コロナ禍を乗り切りさらに今後を見据えた事業展開を進めるためには、補助金、経済対策を積極的に活用することが重要です。富山第一銀行では、各種補助金や経済対策の情報提供や支援等を積極的に実施しておりますので、ぜひ活用ください。

事業再構築補助金

新規事業分野への進出等の新分野展開、業態転換、事業・業種転換、事業再編またはこれらの取組を通じた規模の拡大等、思い切った事業再構築に意欲を有する中小企業等の挑戦を支援する補助金

【最大 6,000 万円、補助率 2/3】

中小企業生産性革命推進事業

（ものづくり補助金、持続化補助金、IT 導入補助金）

生産性革命に寄与する事業に対して給付する推進事業であり、「ものづくり補助金」「小規模事業者持続化補助金」「IT 導入補助金」の3つの補助金からなる。補助金の種類によって、上限金額、補助率等は異なる。

補助金

事業承継・事業引継ぎ補助金

コロナ禍において、事業承継・引継ぎを契機とする業態転換や多角化を含む新たな取組や廃業に係る費用、事業引継ぎ時の士業専門家の活用費用等が補助対象となる。各支援類型により上限金額が異なる。

富山県中小企業リバイバル補助金

ウィズコロナ、ポストコロナを見据えた「新しい生活様式」やデジタル化に対応し、事業活動を再建し成長、発展するため、販路開拓や感染症対策、DX等に加え、企業連携や業態転換等による新ビジネスの創出などのための補助金

【最大 100 万円、補助率 2/3（小規模 3/4）】

中小企業の経営資源の集約化に資する税制

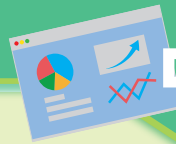
- ①M&Aの効果を高める設備投資減税
- ②雇用確保を促す税制（M&Aに伴って行われる労働移転等による税額控除）
- ③準備金の積立（M&A実施時に発生し得るリスクに備えるための準備金を取り崩した時の損金算入）

中小企業設備投資税制の延長

「中小企業経営強化税制」の適用期限が、令和5年3月31日まで2年の延長となる。生産性向上設備、収益力強化設備、デジタル化設備、経営資源集約化設備が対象

【特別償却又は税額控除】

税制



中小企業動向調査

この調査は、富山県内企業278社からのアンケート結果をまとめたものです。

企業の調査資料として、令和2年10月～12月の実績、令和3年1月～3月の見込み、令和3年4月～6月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていません。

日本銀行富山事務所が令和3年2月10日に公表した「富山県金融経済クォーターリー（2021年冬）」によると、「富山県の景気は、厳しい状況ながら、持ち直しつつある。最終需要をみると、個人消費は、厳しい状況にあり、持ち直しのペースが鈍化している。住宅投資は、弱い動きとなっている。設備投資は、弱めの動きとなっている。公共投資は、高水準で横ばい圏内の動きとなっている。」としています。

回答企業数

278

調査時期：令和3年1月下旬～2月初旬

方 法：インターネットによる当取引先へのアンケート実施

I 企業業況

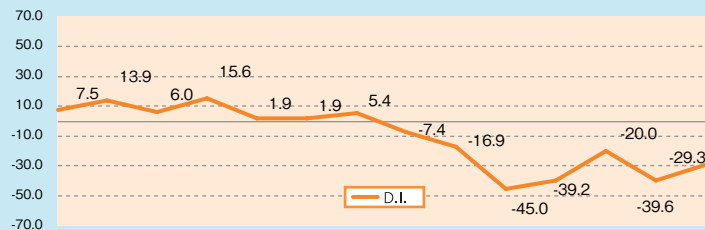
企業業況の推移

(全産業)

(%)

見込 予測

期別 種別	30年				31年				元年				2年				3年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月		
良 い	18.6	24.8	21.6	23.8	19.3	21.3	22.7	14.8	15.0	9.1	11.8	16.8	8.9	8.9				
普 通	70.4	64.2	62.8	68.0	63.2	59.2	59.9	63.1	53.1	36.8	37.1	46.4	42.5	52.9				
悪 い	11.1	10.9	15.6	8.2	17.5	19.4	17.4	22.1	31.9	54.1	51.1	36.8	48.6	38.2				
D . I .	7.5	13.9	6.0	15.6	1.9	1.9	5.4	-7.4	-16.9	-45.0	-39.2	-20.0	-39.6	-29.3				



(うち製造業のみ)

(%)

見込 予測

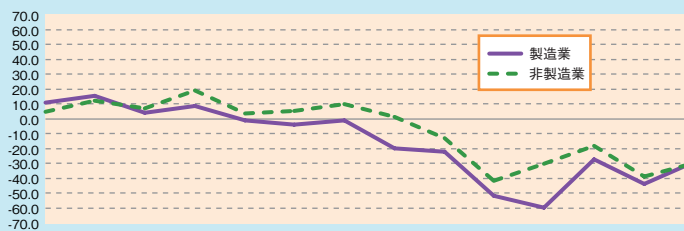
期別 種別	30年				31年				元年				2年				3年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月		
良 い	22.5	29.0	20.8	19.6	16.7	21.4	22.5	11.9	13.9	7.8	8.5	20.3	6.8	10.2				
普 通	65.8	57.9	62.3	69.6	65.5	53.6	53.9	56.4	50.0	32.5	23.7	32.2	42.4	50.8				
悪 い	11.7	13.1	16.9	10.9	17.9	25.0	23.5	31.7	36.1	59.7	67.8	47.5	50.8	39.0				
D . I .	10.8	15.9	3.9	8.7	-1.2	-3.6	-1.0	-19.8	-22.2	-51.9	-59.3	-27.1	-44.1	-28.8				

(うち非製造業のみ)

(%)

見込 予測

期別 種別	30年				31年				元年				2年				3年	
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	1～3月	4～6月		
良 い	15.5	22.2	22.1	26.2	21.1	21.3	22.9	16.8	15.8	9.8	13.4	15.8	9.5	8.6				
普 通	73.9	68.3	63.1	67.1	61.7	63.0	64.3	67.8	55.5	39.2	43.3	50.2	42.5	53.4				
悪 い	10.6	9.6	14.8	6.7	17.2	15.7	12.9	15.4	28.8	51.0	43.3	33.9	48.0	38.0				
D . I .	4.9	12.6	7.4	19.5	3.9	5.5	10.0	1.4	-13.0	-41.3	-29.9	-18.1	-38.5	-29.4				



- ① 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い-悪い」は、今回調査の令和2年10-12月では、マイナス20.0となり前回比で19.2ポイント改善しました。先行きについては、令和3年1-3月は悪化傾向となっていますが、令和3年4-6月は再度回復する予想。
- ② 製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前回比32.2ポイント改善、非製造業では前回比11.8ポイント改善しています。非製造業については、小売業等で一部改善傾向が見られますが、宿泊・飲食業については依然として厳しい状況が続いています。

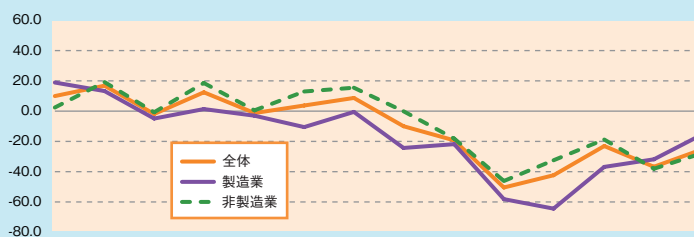
II 売上高状況

売上高状況

全産業		売上高状況 (%)												見込		予測			
期別	種別	30年				31年				元年				2年				3年	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
増	加	31.2	31.0	21.7	25.3	21.1	25.6	25.8	18.6	15.3	10.0	14.0	20.0	12.9	11.8				
横	ばい	47.0	54.7	54.0	61.5	56.3	52.1	56.7	52.5	49.4	29.5	29.0	36.8	37.1	51.1				
減	少	21.8	14.2	24.2	13.2	22.5	22.3	17.5	28.9	35.3	60.5	57.0	43.2	50.0	37.1				
D.I.		9.5	16.8	-2.5	12.1	-1.4	3.3	8.3	-10.3	-20.0	-50.5	-43.0	-23.2	-37.1	-25.4				

うち製造業のみ		売上高状況 (%)												見込		予測			
期別	種別	30年				31年				元年				2年				3年	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
増	加	36.9	29.9	19.5	18.3	17.6	21.4	22.8	16.2	16.7	7.8	5.1	15.3	11.9	16.9				
横	ばい	45.0	53.3	55.8	64.5	61.2	46.4	53.5	43.4	44.4	26.0	25.4	32.2	44.1	50.8				
減	少	18.0	16.8	24.7	17.2	21.2	32.1	23.8	40.4	38.9	66.2	69.5	52.5	44.1	32.2				
D.I.		18.9	13.1	-5.2	1.1	-3.5	-10.7	-1.0	-24.2	-22.2	-58.4	-64.4	-37.3	-32.2	-15.3				

うち非製造業のみ		売上高状況 (%)												見込		予測			
期別	種別	30年				31年				元年				2年				3年	
		1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月		
増	加	26.8	31.7	23.1	29.3	23.4	28.3	28.1	20.3	14.3	11.2	18.1	21.3	13.1	10.4				
横	ばい	48.6	55.7	52.9	59.8	53.1	55.9	59.0	58.7	53.1	31.5	30.7	38.0	35.3	51.1				
減	少	24.6	12.6	24.0	11.0	23.4	15.7	12.9	21.0	32.7	57.3	51.2	40.7	51.6	38.5				
D.I.		2.1	19.2	-0.8	18.3	0.0	12.6	15.1	-0.7	-18.4	-46.2	-33.1	-19.5	-38.5	-28.1				



- ① 今回の調査では売上高状況はマイナス23.2となり、前回は19.8ポイント改善しました。先行きについては、令和3年1-3月ではコロナ第三波の影響を直接受けた時期であり悪化予想ですが、令和3年4-6月は再度改善の予想となっています。
- ② 製造業と非製造業に分けてみると、製造業では前回は27.1ポイントの改善、非製造業では前回は13.6ポイントの改善となっています。製造業については令和3年1月以降は改善予想となっています。非製造業については、令和3年1-3月はコロナ第三波の直接受けた結果、今回調査より19.0ポイント悪化する予想。

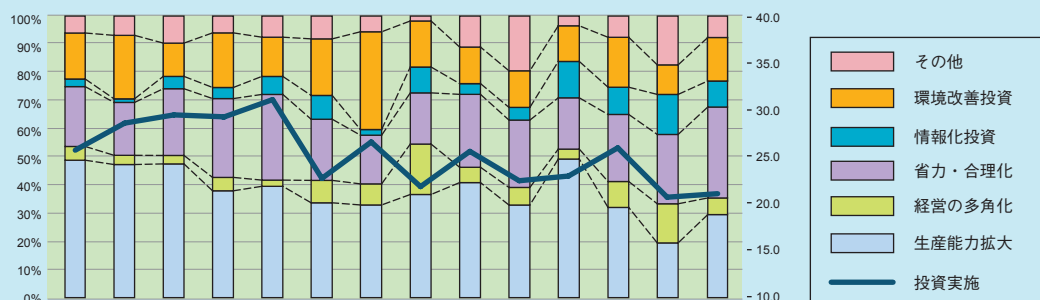
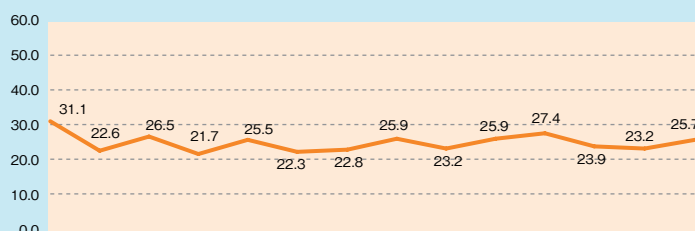
Ⅲ 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	30年				31年				元年				2年				3年	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	見込	予測		
投資実施	31.1	22.6	26.5	21.7	25.5	22.3	22.8	25.9	23.2	25.9	27.4	23.9	23.2	25.7				
投資せず	68.9	77.4	73.5	78.3	74.5	77.7	77.2	74.1	76.8	74.1	72.6	76.1	76.8	74.3				

設備投資の目的（実施先について）

	（%）													
生産能力拡大	39.2	33.3	32.7	36.4	40.7	32.6	49.1	31.7	33.9	28.1	35.3	32.8	20.0	19.4
経営の多角化	2.5	8.3	7.7	18.2	5.6	6.5	3.6	9.5	5.1	3.5	2.0	9.0	9.2	15.3
省力・合理化	30.4	21.7	17.3	18.2	25.9	23.9	18.2	23.8	18.6	15.8	21.6	20.9	24.6	22.2
情報化投資	6.3	8.3	1.9	9.1	3.7	4.3	12.7	9.5	3.4	7.0	7.8	4.5	9.2	11.1
環境改善投資	13.9	20.0	34.6	16.4	13.0	13.0	12.7	17.5	18.6	28.1	19.6	17.9	23.1	16.7
その他	7.6	8.3	5.8	1.8	11.1	19.6	3.6	7.9	20.3	17.5	13.7	14.9	13.8	15.3

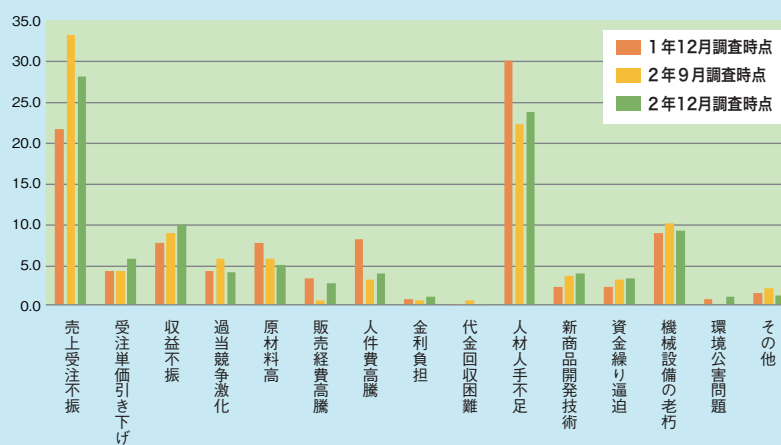


- ① 今回の調査では、設備投資を実施した企業は23.9%となり、前回よりマイナス3.5ポイントとなりました。設備投資を実施した目的については、生産能力拡大が32.8%と多く、次いで省略化・合理化が20.9%と多くなっています。

IV 当面の経営上の問題点

	1年12月 (前年同期)	2年9月 (前回)	2年12月 (今回)	うち製造業		前回比増減
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	21.5	33.0	27.9	(30.0)	(27.2)	-5.1
受注単価引き下げ	4.0	4.0	5.5	(5.5)	(5.6)	1.5
収益不振	7.4	8.6	9.6	(10.9)	(9.3)	1.0
過当競争激化	4.0	5.5	3.9	(2.7)	(4.2)	-1.6
原材料高	7.4	5.5	4.7	(8.2)	(3.7)	-0.8
販売経費高騰	3.0	0.3	2.5	(1.8)	(2.6)	2.1
人件費高騰	7.9	2.8	3.7	(1.8)	(4.2)	0.8
金利負担	0.5	0.3	0.8	(0.9)	(0.8)	0.5
代金回収困難	0.2	0.3	0.2	(0.0)	(0.3)	-0.1
人材・人手不足	29.9	22.0	23.6	(17.3)	(25.4)	1.6
新商品開発技術	2.0	3.4	3.7	(4.5)	(3.4)	0.3
資金繰り逼迫	2.0	2.8	3.1	(3.6)	(2.9)	0.2
機械設備の老朽	8.6	9.8	9.0	(11.8)	(8.2)	-0.8
環境公害問題	0.5	0.0	0.8	(0.0)	(1.1)	0.8
その他	1.2	1.8	1.0	(0.9)	(1.1)	-0.8

(% : 複数回答あり)



- ① 当面の経営上の問題点として最も高いポイントとなったのは、前回同様、売上受注不振で27.9%です。次に高いポイントとなったのは「人材人手不足」の23.6%であり、コロナ前の人材不足の状況は改善しつつあるとは言え、まだ人手が足りていない状況です。「収益不振」については前年同月（令和1年12月）および前回（令和2年9月）から増加し9.6%となっており、今後も収益不振の状況は続くと予想されます。

I 製造業



業況は堅調に推移しており、新型コロナの影響を受けにくい業界であるといえる。経営上の問題点では、「売上不振」「原材料高」「人材、人手不足」が高いポイントとなっている。



業況は非常に悪く、令和2年10月～12月実績、令和3年1月～3月見込み、令和3年4月～6月予測すべて悪化となっている。設備投資では環境改善投資や経営の多角化投資等が行われている。



化学製品

業況は堅調に推移しており、業況D.I.はプラスとなっている。コロナの影響を受けにくい業界であると言え、設備投資では環境改善投資等が行われている。



プラスチック

業況は堅調に推移しており、売上状況を横ばいと回答した企業が令和2年10月～12月実績では66.7%、また令和3年1月以降も堅調に推移すると予測している。



金属製品

前回調査より業況は改善したが、マイナス状況は変わらず、令和3年1月以降さらに業況悪化が予測されている。経営上の問題点では「売上不振」が最も高くなっており、売上の減少が業況悪化の主要因を占めていると思われる。



生産用
機械器具

前回調査より業況は改善したがマイナス状況である。しかし、企業の設備投資が少しずつではあるが戻ってきている状況であり、今後はマイナス幅が縮小していくと予測している。



電子部品

前回調査では業況D.I.はマイナスであったが、今回調査ではプラスに転じている。今後の予測でも回復傾向を示している。

II 非製造業



建築業

令和3年1月～3月にかけては、業況D.I.が $\Delta 35.1$ とマイナス幅が令和2年10月～12月より悪化する見込み。ただし、建設業特有の冬場の工事ストップによる落込みもあり、令和3年4月以降は回復の予測である。



運送業

前回調査より業況D.I.は改善したが、いまだ $\Delta 41.7$ とマイナスが続いており、今後も改善の見込みがない状況である。



卸売業

前回調査より業況は改善したが、いまだ $\Delta 44.4$ とマイナスが続いており、今後も改善の見込みがない状況である。



小売業

業況はプラスとなっているが、新型コロナ第三波の影響により令和3年1月～3月はマイナスとなる見込み。ただし、その後は再度回復傾向となっている。



専門・技術
サービス業

業況は回復傾向にあり。令和3年1月～3月はプラスとなる見込みであり、今後も堅調に推移していくと予想される。



宿泊業

令和2年10月～12月の業況D.I.は42.9まで回復。しかし、新型コロナ第三波の影響による業況悪化が大きく、令和3年1月～3月は $\Delta 71.4$ となるなど、厳しい状況が続く。



飲食
サービス業

新型コロナ第三波の影響が飲食業の繁忙期である年末の時期を直撃した影響から、令和2年10月～12月は $\Delta 100.0$ となる。その後も、令和3年6月までマイナス予想が続く。



医療福祉
関連

前回調査より業況は回復しているが軽微にとどまっている。診療控えや福祉施設の利用減など、医療・福祉業界においても新型コロナウイルスの影響を受けているといえる。

中小企業のお悩みに効く!

 富山第一銀行

売上UP
どうすれば…

販路拡大
方法は…

企業の常備薬として

人材育成
進まない…

後継者
決められない…

経営者の皆さま、一人でお悩み抱えていませんか。
地域に根ざしているからこそ力になれる
その思い富山第一銀行に聞かせてください。

 富山第一銀行 <https://www.first-bank.co.jp/business/>